

科目名	家庭看護・福祉	学 年	2 年	コース	全	単位数	2	担当者	
-----	---------	-----	-----	-----	---	-----	---	-----	--

1 目 標

病気の予防と家庭看護，高齢者の介護などに関する知識と技術を習得し，家族や高齢者の健康管理とともに，家庭看護や高齢者介護の充実を図る能力と態度を身に付ける。

2 到達目標

日常かかりやすい病気やけがの種類や原因について理解し，近年の健康をめぐる諸問題を認識する。

病気の予防について理解し，家庭での看護の基礎的な技術を身に付ける。

我が国の高齢化の特徴や現状と課題について把握し，高齢者の健康や生活を守るために求められていることを理解する。

高齢者の介護の基本は自立生活支援であることを理解し，高齢者介護に関する基礎的な技術を習得する。

3 成績評価の方法

定期考査，提出物，授業への出席状況や授業態度を総合的に評価する。

4 学習者へのメッセージ

家庭看護とは，家庭でだれにでも行える病人や高齢者の介抱であり，また，福祉とは，みんなが幸福になるために，みんなの生活が安定するよう，社会全体が一緒になって努力することと考えられる。すなわち，社会の一員として理想的な社会生活を営むことができるように，身体面からも，社会の面からも援助することが看護と福祉における課題である。

我が国は，急速に高齢化を迎え，1994年には高齢者人口（65歳以上）が人口の14%をこえた。2015年には25%に達し，4人に1人が高齢者という状態がくと予測されている。高齢者人口の急激な増加によって，福祉施設の絶対数は不足し，一方要介護者・高齢者の多くは家庭で過ごすことを望んでいる。家庭における看護・介護の必要性はますます高まっている。自分や家族にとって，どのような高齢期の生活が望ましいのか。また，そのためにはどのような社会の高齢者支援システムが必要なのか。個人の生活設計と関連づけて考えよう。

ノーマライゼーションの理念が普及し，施設ケアから地域や在宅ケアへの転換の動きがある。ノーマライゼーションの理念を実現するために必要な在宅サービス，施設の拡充，就労の促進，その他必要とされる条件について考え，身の回りの要介護者・高齢者が安心して生活できる福祉のまちづくりについて各市町村での対策について考えよう。

5 使用教材

教科書「家庭看護・福祉」(実教出版) 予定

副教材 未定

6 自己評価

1年間を振り返って到達目標を達成できたか，自己評価をして，今後の課題を明らかにしよう。

到達目標 [] [] [] []

課 題

A：十分，達成できた。 B：だいたい達成できた。 C：努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元(章,節など)	重点目標
4 5 6 7	第1章 健康と病気 1. 健康 2. 病気のなりたち 3. 罹患状況の変化 4. 病気の予防と早期発見 5. 家庭看護 第2章 病気と看護 1. 家族の年代別の健康管理 2. 病気の種類と特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を保持し,増進する意味の理解 ・健康を回復させるための健康専門職の必要性についての理解 ・病気の原因の理解 ・病気の種類と特徴の理解 ・早期発見する能力の習得 ・健康な生活を送るための栄養・運動・休息・および精神衛生に関する基本的事項の理解 ・家族による家庭看護の重要性についての理解 ・年代ごとの主な健康問題を具体的に知る。 ・現状と問題点,病気に対する予防法の把握
1 学 期 期 末 考 査		
9 10 11 12	3. 家庭での看護 第3章 高齢者の介護 1. 高齢者の心身の特徴 2. 高齢者の介護の基本 3. 高齢者の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭看護における基本的な知識の理解 ・応急手当の基本技術の習得 ・加齢に伴った身体的・精神的な変化の理解 ・高齢者の病気の特徴や事故の特徴の理解 ・高齢者の介護の実態についての理解 ・寝たきり予防の必要性についての理解 ・高齢者の日常生活における介護についての理解 ・介護における高齢者への配慮の理解。
2 学 期 期 末 考 査		
1 2 3	第4章 高齢者の福祉 1. 高齢化の進展と高齢者の福祉 2. 老人福祉制度と老人福祉 3. 高齢者福祉の国際比較	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の現状とその背景,および高齢社会の問題の理解 ・高齢者を支援する社会システムの現状の理解と今後の課題について考える ・日本の高齢者福祉の特徴を知る ・施設ケアから在宅ケアへの変換,地域ぐるみの福祉の必要性についての理解 ・ノーマライゼーションの理念の理解 ・地域住民として,高齢者や障害者が暮らしやすいまちづくりに参加することの大切さの認識
学 年 末 考 査		

